

目次

はじめに 3

第1章 病理学をはじめよう

- 病理学の世界にようこそ 14
- 外から忍び寄る見えない敵―外因 16
- 体の中に潜む病気のもと―内因 18
- 病気を観察し分析する―病理学とは 19
- 森全体を俯瞰する―病理学総論 21
- 一本一本の木を詳細に観察する―病理学各論 22
- 病理学の二つの顔とは？―研究者と臨床医 24
- 病理医の「目」が捉えるものとは？ 26
- 組織・細胞の変化を顕微鏡で見る 28
- 診断の第一歩―生検 34
- 外科医の「次の手」を決める―術中迅速病理診断 35
- 組織ではなく細胞に注目する―細胞診 37

病理医の「最後の切り札」―病理解剖 39

ヒトはなぜ、そしてどのように死を迎えるのだろうか

―病死と老衰 44

病気に「名前」をつける、その意味とは？ 47

第2章

病理学で「病気」を読み解く

木を切る前にまずは斧を研ごう―病気の見方のコツ 60

パソロジー思考その1…病気は病因・病態で括る 63

パソロジー思考その2…病態の連鎖と重なりを考える 74

パソロジー思考その3…組織・細胞所見から病態を考える 80

パソロジー思考その4…臓器特異性を考慮する 82

パソロジー思考その5…時間軸を持って病態を考える 84

病気を多角的に捉えるパソロジー思考 87

第3章

がんを読み解く

がんを撲滅する 92

腫瘍細胞の元は自分の細胞 93

「がん」は拡がり、散らばる 94

腫瘍に関する表現 97

パングー思考でみた病態の連鎖と重なり 103

パングー思考でみた患部の変化 106

パングー思考でみた病態の臓器特異性と時間軸 111

高齢男性の数ヶ月来の上腹部不快感と背部痛 114

小児の非固形がん 125

第4章 「炎」を読み解く

最前線の即時対応！心優しいガキ大将―自然免疫 139

「食べて、伝えて、援護する」！

―自然免疫のエキスパート集団 141

血管を拡張、細胞を動かす―炎症の初期行動 143

一度遭遇したら忘れない―「獲得免疫」の知恵 144

二度目の攻撃は確実に防ぐ！

―「メモリー細胞」が持つ最強の記憶 146

「炎症」は防御システムが起こす現象 147

「免疫異常」が起こす三つの悲劇 148

第5章

循環の不具合を読み解く

- 「炎症」と「腫瘍」が連鎖する危険な関係 155
- 患部の組織・細胞が語る病態のサイン 156
- 臓器特異性と時間軸 162
- 高齢男性の発熱、急激な呼吸困難 166
- 若年女性の全身性エリテマトーデス（SLE） 172
- 循環障害を因数分解して考えてみる 184
- 血圧の異常―高血圧 188
- 血液性状の異常―血栓 191
- 循環障害の病態の連鎖と重なりを考える 194
- 虚血で生じる変性と壊死 195
- うっ血、充血、出血 197
- 臓器特異性と時間軸 198
- 女性会社員の「むくみ」 201
- 心筋梗塞と脳梗塞 208

第6章

均衡状態の破綻を読み解く

からだを「整える」——ホメオスタシスのすごさ 216

内分泌系のはたらき 218

内分泌系に異常が生じたら 222

代謝システムのはたらき 226

代謝システムに異常が生じたら 228

先天性疾患・形成異常 232

病態の連鎖と重なり——フィードバックシステムの崩壊 233

内分泌臓器の組織変化から病態を考える 234

臓器特異性と時間軸 237

女性の動悸・息切れ、体重減少 239

糖尿病 244

第7章

病理学のこれまでとこれから

「病気は病因・病態で括る」の視点

——近代病理学の確立

254

「組織・細胞所見から病態を考える」の視点 — 病理解剖学の時代	260
「病態の連鎖と重なりを考える」の視点 — 病態生理学・分子病理学への移行	261
「病態の臓器特異性を考える」の視点 — 臓器別病理学の発展	262
パソロジー思考は「病理学の歴史」にも 沿ったものだった!	263
病理学のこれから	265
がん治療と診断の近未来	268
いろんな変化を丸ごと解析できたらいいな 病気の変化を立体的に見れたらいいな	276
デジタルパソロジーと病理AIの近未来	280
医学は細分化から統合へ	283
おわりに	286
索引	293



- ステイブ・ジョブズの死から学ぶ、腫瘍分類とメデアリテラシー 57
- ベートーヴェンを苦しめた病の謎…最新科学が迫る真相 89
- がんの生存戦略 134
- 免疫システムと腸内細菌叢…腸は最大の免疫器官!? 180
- モーツァルトの突然死の謎…瀉血説!? 213
- 織田信長は糖尿病だったのか? 251
- 現代病理学の父、ウィルヒョウは最期まで科学者だった 264